



まほろん通信

VOL. 6

(平成14年10月15日発行)

(財)福島県文化振興事業団

福島県文化財センター白河館

〒961-0835

白河市白坂字一里段 86

TEL024842-0700 (代)

FAX024842-1075

URL <http://www.warichofcs.kcs.jp>



「体験発掘ツアー」に行ってきました

みなさんごぞんじのように、まほろんは、「遺跡」から出土したもの - 「遺物」 - に親しんでいただく所です。ただ、「遺跡」自体はまほろんに持ってくる事ができませんから、遺跡の様子は模型でお見せしています。「それでは物足りない」、「実際に遺跡を掘ってみたい」という方々のために、年に一回体験発掘を実施しています。昨年に引き続き、今年も矢祭町教育委員会さんにお世話になりました。お邪魔したのは、^{あかのだ}岡野田遺跡という、縄文時代中ごろの遺跡です。これまでの調査で、竪穴住居跡や木の実を貯めたとみられる大きな穴などがみつかっています。

8月31日の当日は、お天気にめぐまれました。岡野田遺跡の調査員さんから説明を受けた後、めいめい移植ゴテを持って「遺物包含層」^{いぶつほうがんそう}を掘りました。「遺物包含層」なんていうと難しそうですが、言いかえれば昔のゴミ捨て場です。岡野田遺跡は斜面にある遺跡で、斜面の下の方に当時の「燃えないゴミ」である、割れた縄文土器がたまっていました。石器を作るときに出る、鋭い石の破片もたくさん出てきました。珍しいところでは、魚を捕まえる網に取りつける、石でできたオモリもみつかりました。「燃えないゴミ」も時がたてば貴重な文化財です。参加者の皆さんは4千年ぶりに姿を表した土器や石器を手にとっては、走って私たちに見せにきたり、感慨深げに見入ったりしていました。

体験学習

石器づくり

7月20日に「石器づくり」をしました。小学生を中心に、20名の方が参加され、今回は矢の先に付ける「矢じり」を作りました。矢じりは、縄文時代の遺跡を掘るとたくさん見つかります。弓矢は、縄文時代に発明された、重要な狩りの道具と考えられています。

矢じりの材料には、黒曜石(こくようせき)を使用しました。矢じりを作るには、まずこの黒曜石のかたまりを、握りやすい大きさの河原石でたたいて、薄いカケラをとります。黒曜石は天然のガラスなので、そのカケラで肉でも何でもスパスパ切ることができます。このカケラに、20cmくらいに切った鹿の角先を押し当て、薄くはがしながら矢じりの形に整えていきます。なるべく薄く、左右対称に作るとまっすぐ飛び、よく刺さる矢じりができるのですが、非常に難しい作業です。相当、力が必要ですし、変な方向に力を入れると素材のカケラが折れてしまいます。

そうしてできた矢じりを、最後に篠竹にくくりつけて矢を作り、弓矢の試し打ちをしました。発泡スチロー

ルで作ったイノシシ的に向かって矢を射ると、矢は勢いよく飛んで的を貫通し、その威力に参加者のみなさんは、一様に驚かれていました。

ガラス玉づくり

今年のまほろん夏の展示『弘法山のよこあな』と関連づけて、8月17日にガラス玉を作りました。古代のガラス玉作りにはいくつかの方法がありますが、遺跡から一番たくさん出てくるのは、型で作ったガラス玉のようです。ガラス玉の型は、たこ焼きの型のミニミニ版と想像いただければいいと思います。もう一つの方法は、ガラス棒をストローのように伸ばしてから切っていく方法です。

今回、参加者のみなさんにやっていただいたのは、鉄の棒に、ガラスを巻きつけて作る方法です。飴細工のようなものだと思います。ガラス棒をガスバーナーで熱し、トロリととけたところを鉄芯で受け止め、巻きつけます。参加者のみなさんはすぐにコツをつかみ、多い人で10個くらいのガラス玉を完成させました。

大変楽しかったので、11月26日(火)から12月8日(日)まで、一般の館内体験メニューとして体験活動室でやる予定です。

開館1周年記念イベント

「まほろん1周年だよ！ボランティア2002」と題してまほろん開館1周年記念イベントを平成14年7月21日に行いました。

今回のイベントは、昨年7月15日に開館したまほろんの1周年を記念するもので、まほろんで活動する58人のボランティアが実行委員会を組織し、企画・運営を行いました。

当日は、夏休み最初の日曜日とあって、県内各地から600人を超す親子連れの方に来館いただきました。

幼児、小・中学生及び家族連れの方に、まほろんと歴史にふれながら楽しんでもらうため、まほろんオリエンテーリング、チャレンジ火おこし、まほろんウルトラクイズ、草履飛ばし、まほろん槍投げ、昔のおもちゃで遊んでみよう、マンガでみる日本の昔むかしなどの体験コーナーの他に、お楽しみコーナーとしてカキ氷、カル



<チャレンジ火おこし>



<まほろん槍投げ>

メ焼き、水風船釣り、わたあめなどを無償で提供しました。

このイベントの成功が、バザーへの出店を提案し運営費の捻出に知恵を出してくれた人、毎週土・日曜日に集まって道具作りを自主的にやってくれた人、自宅で道具や記念品をコツコツと作ってイベント当日に間に合わせた人など、それぞれのボランティアが与えられた立場の中で準備を進め、イベントを成功させようとする熱い情熱に支えられていたことは言うまでもありません。

今回のイベントは、私たちまほろんボランティア一人

ひとりに大きな財産を残してくれたような気がします。これを機会にまほろんボランティア同士の絆がますます深まるとともに、連携がより一層よくなるものと期待しています。

(まほろん1周年記念イベント実行委員長 及川光男)



まほろん秋のてんじ

ふくしまの重要文化財

考古資料：縄文・弥生時代編一

期間 / 平成 14 年 10 月 26 日 (土) ~ 11 月 24 日 (日)

国や県・市町村は、歴史上重要と考えられる資料を「重要文化財」として指定し、未来に向けて保護しています。県内には現在、国宝が 3 件、国指定重要文化財が 87 件、県指定重要文化財が 265 件あります。このうち考古資料は国指定が 8 件、県指定が 31 件です。

今回は、国・県指定重要文化財で縄文時代と弥生時代の 7 件の宝物をご紹介します。

【縄文時代】

福島市仙台南前遺跡出土品

縄文時代草創期 (約 12,000 年前) の爪形文土器や石器

塩川町常世原田遺跡出土品

縄文早期 (約 8,000 年前) の「常世式土器」標識資料

柳津町石生前遺跡出土品

縄文時代中期 (約 4,500 年前) の造形的に優れた土器群と土偶

福島市上岡遺跡の土偶

縄文時代後期 (約 3,500 年前) の「蹲踞土偶」

いわき市寺脇貝塚出土品

縄文時代後・晩期 (約 3,500 ~ 2,500 年前) の骨角器

【弥生時代】

表郷村滝ノ森遺跡の人面付弥生土器

弥生時代中期 (約 2,000 年前) の人面が描かれた土器

楢葉町天神原遺跡出土品

弥生時代中期 (約 2,000 年前) の棺に用いた土器と勾玉



<土偶 (柳津町石生前遺跡)>

シリーズ復元展示

福島県古墳時代象嵌資料の復元 1

刀剣への象嵌は古墳時代のものが多く知られていません。統計によると福島県は、東日本では群馬県に次いで 2 番目に発見例が多いところです。平成 10 年に福島県教育委員会が行った矢吹町弘法山古墳群の発掘調査で象嵌大刀が 1 振出土しました。この刀の発見を契機として、まほろんでは県内の古墳時代象嵌資料の復元品を製作し、「夏のてんじ 弘法山のよこあな」でもその成果を公開したところです。今回からは、象嵌の復元についてお話しします。まずは象嵌の基本について紹介したいと思います。

象嵌ってなあに？

ある素材 (地) に別の材質を嵌め込む装飾技術のことを「象嵌」(「象」はかたちのこと)と言います。

古墳時代の象嵌は、刀剣のほか、馬の鞍金具などに表現されています。またガラス玉を嵌める象嵌も見られます。弘法山古墳群の象嵌は柄頭 (あるいは靱尻金具) という金具に銀線で心葉文 (もともとは鳳凰をかたどったもの) と呼ばれるデザインが描かれています。また、象嵌は刀剣のような金属工芸だけでなく、陶芸や木工といった分野でも使われている技法です。

象嵌にはどんな種類があるの？

弘法山例のように線で表現する象嵌技法を、線象嵌といいいます。このほかに代表的な象嵌技術として、平面的に象った金属を嵌める平象嵌、地金を布目状に刻んで、象った金属を嵌める布目象嵌などがあります。古墳時代の象嵌はほとんどが線象嵌と考えられ、嵌め込む金属は、ほとんどの場合に銀が使われましたが、まれに金や銅が使われることもありました。

線象嵌はどんな技法なの？

線象嵌は地金にタガネで溝を彫り、線を嵌めて、研ぎだす技法です。

象嵌は現代にもあるの？



タガネで溝を彫る
銀線を嵌める
ヤスリで研ぐ

< 銀象嵌の手順 >

象嵌は現在でも工芸として現役の技術で、様々な装飾品に使われています。たとえば線象嵌も伝統的工芸品に見られます。

ただ同じ線象嵌でも古墳時代と現代のものでは異なるところがあります。弘法山の象嵌は線が抜け落ちて、溝だけになっているところがあります。ところが現代の象嵌では嵌め込んだ金属が抜けることは絶対にないと言われています。

古墳時代の線象嵌の溝は、タガネで彫ったときに、周囲にミミズ腫れ状の膨らみができます。線を嵌めた後に、研ぎを加えますが、その時に、周囲の膨らみが線を押える役目を果たします。ところが、この押えが不十分な場合、線が抜け落ちてしまう可能性があります。ところが現代の線象嵌は、タガネで彫った後に、さらにタガネで溝の内側を広げるように細工をします。そのため溝の断面が口の狭い袋状になり、線をはめ込んだら二度と抜けない構造になっているのです。

研修課より

手作り体験学習の道具を作る(体験学習研修)

7月23日から4日間、「体験学習研修」を開講しました。受講者は教員のかたが9名でした。

体験学習研修とは、学校・公民館などで歴史教育を行う場合、文化財をどのように活用すれば良いかということ学ぶ研修です。今回は「布編み」と「火おこし」の道具を、身近な材料で作る研修を行いました。

「布編み」は縄文時代から行われていたと推定される「アンギン編み」の道具を作ってみました。この「アンギン台」は本来木材を組み合わせて作りますが、今回は段ボール箱を切ったり、折ったりして作りました。高さ30cmの角柱2本に、長さ50cmの板を渡す構造になっています。

「火おこし」の道具は「舞いぎり」を作りました。舞いぎりも本来は木製ですが、部品の接続等が難しいため、研修では軸木を塩ビ管にして、火きり杵との接続をゴムホースで行う構造にしました。



< 舞いぎりをつくる >

道具の完成後、アンギン台で縄文の布を編み、舞いぎりでおこしをして道具の出来栄を確かめました。どの道具も本物と遜色ない働きをすることがわかり、受講者一同満足の様子でした。今後、学校における体験学習に少しでも役立てられるのなら幸いです。来年も多くの人々がこの研修を受けられるよう希望します。

総務管理課より

まほ通・誌上バックヤードツアー

このコーナーでは、普段は来館者にはご覧頂けない「まほろん」のバックヤードの施設を紹介します。今回はその第1回目として、銀行の金庫のような扉に守られた「特別収蔵庫」を紹介します。

特別収蔵庫

「まほろん」では、保存処理を施した木質遺物・金属製遺物は、温湿度を一定に管理した「特別収蔵庫」で保管しています。遺跡から出土した木質遺物・金属製遺物は、放っておくと劣化・腐食などが著しく進んでしまいます。遺物をより良い状態に保つため、様々な方法で遺物に保存処理を施すことが試みられていますが、あわせて保管の環境条件も大切なことから、デリケートな遺物はこの「特別収蔵庫」に保管されています。



< 特別収蔵庫 >

なお、特別収蔵庫に保管される資料のうち、東村沢内古墳群出土の武器・馬具、相馬市大森A遺跡やいわき市大猿田遺跡出土の農耕具など、保存処理が済んだ状態の安定した資料は、一部を常設展示「暮らしをささえた道具たち」のコーナー等に展示・公開しています。

まほろんからのお知らせ



年末・年始の休館日について

まほろんは、年末の12月28日(土)から年始の1月4日(土)までの8日間休館いたします。

1月5日(日)からは、平常どおり開館します。

ご利用案内

開館時間 9:30 ~ 17:00 (入館は16:30まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館し、その翌日が休館) 国民の祝日の翌日(土曜日・日曜日にあたる場合は開館)

入館料 無料(体験学習によっては、材料費が必要な場合もあります。)

その他 団体(20名以上)でご利用の場合は、事前にご予約ください。

期 日	講演会・実技講座・イベント	内 容	募集締切	募集人数	対 象	材料費等
10月26日(土)	館長講演会	「農耕と牧畜の生活」-新石器文化-	先着順	60名	どなたでも	無料
11月16日(土)	原始機織	簡単な機織具で布を織ります。	なし	20名		無料
11月23日(土)	館長講演会	「都市の誕生、それから国へ」-金属器文化-	先着順	60名		無料
12月1日(土)	餅つき大会	古代の畑で栽培したもち米を堅杵でつきます。	11月16日	20名	小学生以上(4年生以下は、保護者同伴)	200円
12月21日(土)	凧づくり	竹ひごや和紙で凧をつくります。	12月6日	20名		200円
1月18日(土)	土偶・土面づくり	粘土で「人形」や「お面」をつくります。	12月27日	20名		150円